



# 国際化の最前線から



## 食育で自治体の魅力をアメリカに

NPO法人 TABLE FOR TWO USA 代表 上島カー 真弓

### アメリカの食の課題と和食への関心

日本からの輸出先としての市場規模も大きく、日本への訪問数も多く自治体の海外交流・展開先として魅力のある国の一つであるアメリカ。経済大国でありながらアメリカ社会では深刻な肥満問題や飢餓といった食の課題を多く抱えている。米国バイデン政権は2022年9月に国内の飢餓や肥満を減らすための対策会議を50年ぶりに開催し話題となった。対策には、健康的な食について教える食育の重要性についても触れられている。そういった背景の中、アメリカでは日本に興味を持つ最大のきっかけは日本食となっており、長寿にも貢献するとされるヘルシーな日本食への関心が高まっている。

### 和食を通した食育「和食育」

アメリカの食の課題への対策として、日本発の非営利団体 TABLE FOR TWO USA は「和食育 Wa-Shokuiku」プログラムを構築し、和食を通した食育をアメリカの子どもから大人に届けている。健康的で家庭で簡単に作れる和食の作り方、多くの色や味を使ってバランスよく食べる手法、栄養、食への感謝などを教えている。食料廃棄



小学生からファミリーまで幅広い層が和食育クラスを受講

棄など食に関する問題や「もったいない」精神なども伝えている。健康的な食を楽しみ心身ともに健康的な生活を送れるようになることを目指し、2017年開始以降1万人以上にクラスが提供されている。

### 事例：長野県の魅力をアメリカに

長野県産品を中心に長野県の魅力をアメリカに伝えることを目的に和食育を提供した事例を紹介する。長野県

が長寿県であることやその秘訣、食文化やその他の魅力を紹介するプレゼンテーションや県産品を使ったレシピ（笹寿司・高野豆腐の唐揚げ風・野菜入り味噌汁）を作成。人気の「アルクマ」も登場し、調理体験も通してニューヨークの生徒・保護者・学校スタッフと幅広い関係者が長野県の魅力を体感し健康的な食について学んだ。



長野県の魅力を伝える和食育クラスをニューヨークで実施

近年 SDGs に向けた活動が重視される中、現地が抱える課題に貢献する形で自治体の海外展開企画を実施することで好意的な受け入れも広がっていく。日本食への関心は非常に高く、健康的な側面から海外の食の課題にも貢献できる点で、「食育」という新たな切り口のポテンシャルは高い。

### プロフィール

上島カー 真弓（うへじまカー まゆみ）  
米国カルフォルニア州在住。サンダーバード国際経営大学院にて MBA 取得。アクセンチュア・Eli Lilly を経て TFT に参画。世界の食の不均衡の問題解決に給食・食育支援を通して取り組む。米日財団日米リーダーシッププログラム、ハーバード大学ケネディスクール “Leadership for System Change” フェロー。